

「 読 点 」

～読点の打ち方による文章への効果の変化～

北海道滝川高等学校 理数科 10 班

山内 稜介 ・ 坂下 真啓 ・ 廣野 竣祐

1. はじめに

読点とは、日本語特有の修辞表現の一つであるといえる。なぜなら読点は、文章本来の意味の変化や、読者に与える印象を変える効果をもつからだ。そしてそれらは、読点の打つ位置によって、がらりとかわってしまうものなのである。このような面白い性質を持つ記号「読点」について、我々はその性質の一端を研究した。

主な内容は以下の二点である。

§ 1. 読み手が受け取る文章内の読点の効果の傾向

§ 2. 読点の打つ位置によって起こる文章内の読点の持つ効果の変化

これらから、未だ得られていない、「読点の打ち方によって変化する文章の意味と印象の変わり方についての法則性」を探るのが本研究の大きな課題である。

2 「§ 1」 についての研究

読点の打つ位置によって文章の意味や印象が変わるというのは、実生活中的の何気ない場面で体験したことがあるだろう。今回研究したのは、その「あっ」と気づける類のものではなく、読点そのものが本来持っている、読み手に無意識のうちに与える印象についてのものである。ただし、体言止めや倒置法などでの独特な使われ方をしているものについては本研究からは除外している。なぜならば、明らかに本研究とは知り得たい対象から離れているためである。

以下に研究内容を示す

アンケート調査について、以下のようなことを行った。

まず、文章を用意する。

地方公共団体は、 その区域の自然的社会的条件に応じて……

（雨水の利用の推進に関する法律より）

次に、下線部について次の質問を行う。

●当てはまると思うもの全てに○をつけてください。（その他の場合、あなたが思った意味を書いてください）

< a:時間の経過

b:修飾・被修飾の関係

c:点の前後の言葉の強調

d:修飾語の区切り

e:リズムを生み出す>

これを、さまざまな文章を用いて調査を進める。

このとき、年代別、性別に文章をよく読むか、文章をよく書くか、も調べた。

これで得られた結果の一部を以下に示す。

⑤の文章：地方公共団体は、 その区域の自然的社会的条件に応じ

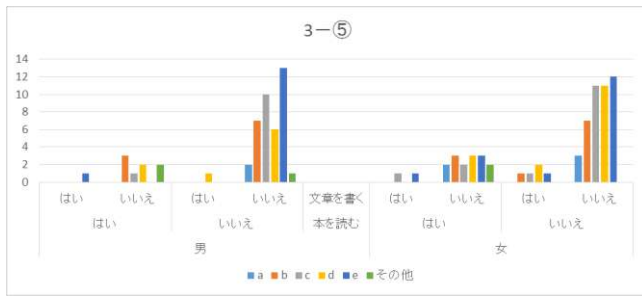


図 1 3 年の⑤の読点の結果

⑦の文章：雨水の利用の推進に関する施策を策定し、 及び実施するよう努めなければならない。

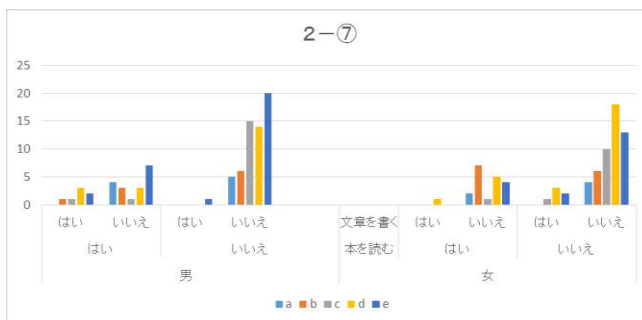


図 2 2 年の⑦の読点の結果

グラフの説明：縦軸は人数、
横軸は a, b, c, d, e

以上の結果より、読み手の違いによる文章の受け取り方に傾向があることがわかった。

3-1. 「§2」についての研究①

内容を以下に示す

アンケート調査について、以下のようなことを行った。

まず、文章を用意する。

何で「月刊むし」の話を書いたかという
と、2014年7月号に「沖縄本島産ホソコバネカミキリ属の1新種」と題して、沖

縄在住のアマチュア研究者、松村雅史氏
と共著で記載論文を発表したからだ。
(生物学の「ウソ」と「ホント」 最新生
物学 88 の謎 池田清彦)

次に、点の位置を変えた文章を用意する。

I, 何で「月刊むし」の話を書いたか、
というと2014年7月号に「沖縄本島産
ホソコバネカミキリ属の1新種」
と、 題して沖縄在住のアマチュア研究者、
松村雅史氏と共著で記載論文を発表した
からだ。

II, 何で、 「月刊むし」の話を書いたかという
と2014年7月号に「沖縄本島産ホソコバネ
カミキリ属の1新種」と
題して、 沖縄在住のアマチュア研究者、 松村
雅史氏と共著で記載論文を発表したから
だ。

III, 何で「月刊むし」の話を書いたか、
というと2014年7月号に「沖縄本島産
ホソコバネカミキリ属の1新種」
と題して沖縄在住のアマチュア研究者松
村雅史氏と共著で、 記載論文を、 発表した
からだ。

次に、読点の前後の品詞を調べた。

次に、下線部について次の質問を行う。

●当てはまると思うもの全てに○をつけ
てください。(その他の場合、あなたが思
った意味を書いてください)

<a:時間の経過

b:修飾・被修飾の関係

c:点の前後の言葉の強調

d:修飾語の区切り

e:リズムを生み出す>

これを、さまざまな文章を用いて調査を進める。

これで得られた結果の一部を以下に示す。

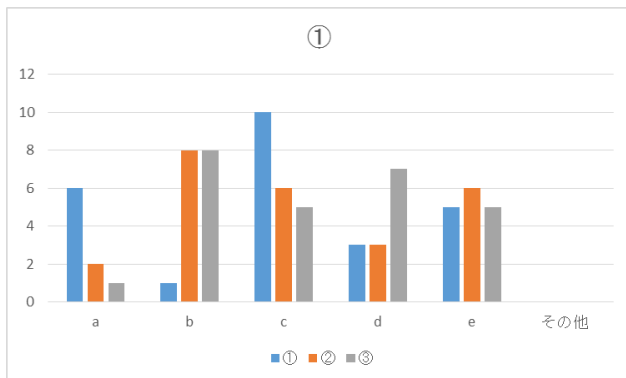


図 3 I の文章

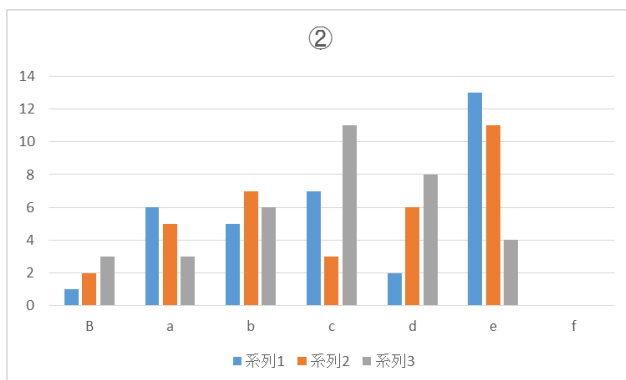


図 4 II の文章

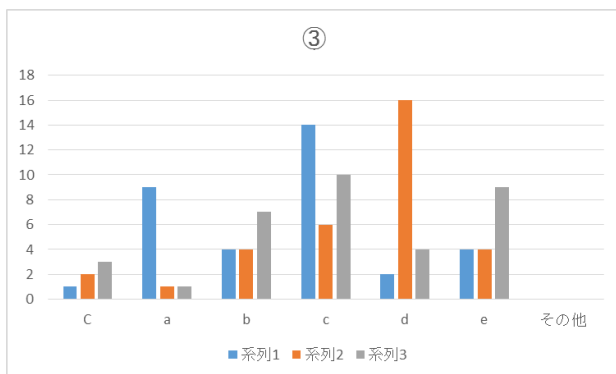


図 5 III の文章

グラフの説明：青色は一番目の下線、
 橙色は二番目の下線、
 灰色は三番目の下線、

以上の結果より、読点の打つ位置によって文章内の読点の持つ効果の変化が起こることが分かった。

3-2「§2」についての研究②

次に、読点の周りの品詞が変わることで、文章内の読点の持つ効果の変化がどのように起こるのか調べた。

内容を以下に示す。

アンケート調査について、以下のようなことを行った。

まず、前後の品詞で分けた文章を用意する。

①北海道は 11 月になると雪が降っていなくても手がかじかみ、それが 3 月くらいまで続きます。（朝日新聞 47086 号 より）

②大学時代は合気道部に所属し、週 6 日稽古に出て黒帯をしめていた。（朝日新聞 47088 号 より）

どちらも、動詞と名詞で挟まれている。
 次に、下線部について次の質問を行う。

●当てはまると思うもの全てに○をつけてください。（その他の場合、あなたが思った意味を書いてください）

<a:時間の経過

b:修飾・被修飾の関係

c:点の前後の言葉の強調

d:修飾語の区切り

e:リズムを生み出す>

これを、さまざまな文章を用いて調査を進める。

これで得られた結果の一部を以下に示す。

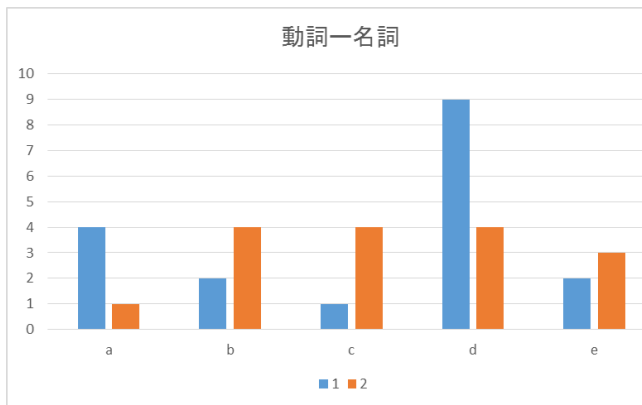


図 6 ①、②の文章

グラフの説明：縦軸は人数、
横軸は、青色が①の文章、
橙色が②の文章。

以上の結果より、読点の周りの品詞が変わることで、文章内の読点の持つ効果に変化が起こることが分かった。

4. 考察

以上の結果から、読点の持つ意味や印象、効果について、

- ・読み手の性質によらず、同じである。
- ・文章の内容によって、ある程度の偏りがある。
- ・打ってある位置の周りの品詞に影響を受ける。

ということが分かった。

しかしながら、データの資料数が少ない部分もあったため、細かい部分での分析が粗くなってしまった部分があるので、そこを補うような繰り返しの調査が必要である。